連載

遠距離介護から見えてくる子ごころ親ごころ

――パオッコ活動現場より⑩

NPO法人パオッコ　～離れて暮らす親のケアを考える会～　太田差惠子

いなかの交通の不便について何度か書きました。遠距離介護を厳しくしている一側面となっています。遠距離介護では、実家での滞在時間は限られています。そんななか、「日に数本」というような公共バスを待っていられないことが通常です。なかには、日祝日は「バスお休み」という地域もあるとか。そもそも親がその地で生活を継続していくにも「足」がなくて困る現状。交通の不便な土地では、買い物でも病気でも「基本はガマンよ」という切ない声についても、前々回書きました。

老親と自家用車に関して、こんな話を聞いたことがあります。いなかで暮らす高齢の親にまっ赤な色の車の購入を勧めたというのです。親に免許証の返納を迫っても、聞く耳を持ちません。現実、返納したら生活をどう成り立たせるかという課題に直面します。日常の買い物は、自家用車があって成立しているというのです。「親自身が起こした事故で、親自身に危害が加わるのは仕方ない。けれども他人を巻き込むわけにはいかない」と彼女。そこで思いついたのが「『あっ、危険な車がきた』とご近所に警戒してもらおう」との案。めでたく親は派手なカラーの車に乗ってくれ、彼女は安心感が増したと言っていました。

ところで、なぜこんなに公共交通機関が衰退したのでしょう。気になり調べてみました。そして出会った言葉が「モータリゼーション」。簡単に説明すると、自動車が大衆に広く普及し生活必需品化する現象のこと。

環境白書によると、モータリゼーションの動向を自動車保有台数でみると昭和35年度末には340万台であったのが、40年度末には2・4倍の812万台、45年度末には5・6倍の1892万台に増加。とりわけ自家用乗用車については伸びが大きく、35年度末から45年度末にかけて21倍に増加しています。私は35年生まれです。私が生まれた年から10年間で自家用車が21倍にも増えたというのは驚きです。

そういえば、私が幼少のころ、私の両親も「自家用車」を購入しました。休日にはいろんなところに遊びに連れていってもらったことを覚えています。ここまで書いて思い出しました！「キャロル」というかわいい車でした。検索してみると、37年に発売された軽乗用車だと分かりました。

大阪市交通局のウェブサイトに「市営交通100年の歩み」というページがあります（※）。1960年の頁が興味深いので引用します。

『昭和30年（1955年）の第3次市域拡張を契機に大阪のまちは戦後の発展が本格化し、市内の道路交通は自動車の激増により各所でマヒ状態になりました。

そしてついに昭和35年（1960年）には大阪駅を中心とする北大阪一帯で10時間にもわたる歴史的な交通マヒが発生したのです。市電はその元凶とされ、存廃が大きく論議されるきっかけとなりました。』

『運行効率が低下するなか、防振・防音に優れた新型車の導入や人件費の削減など、大阪市は様々な対策を実施しましたが大幅な赤字は続き、地下鉄の建設とともに並行する市電路線は相次ぎ廃止されていきました。

そして、昭和44年（1969年）3月31日、明治から戦争を経て長く市民生活に根付いてきた市電は65年にわたる歴史に幕を閉じ、おしまれながら姿を消しました。』

『市バスは、昭和30年代後半から衰退に向かった市電に代わり、路面交通の主役へ大きく成長しました。車両の大型化・高性能化やワンマンカーの比重アップにより運行効率を高め、昭和40年（1965年）の一日平均乗客数は、昭和30年の約3倍、113万人を数えました。

しかし、モータリゼーションの影響は急速に市バスにも及び、昭和45年（1970年）までの5年間で30パーセントも乗客数が激減しました。』

なるほど、公共交通機関の変遷にはこういう歴史的背景があったのです。大阪市内にも市電が走っていたのですね。私は京都出身なので、「路面電車」である市電には哀愁を感じます。街中を走っていたあの市電が地下鉄に変わったのには、こういう理由があったのだと分かりました。邪魔者扱いされて消えたのだと思うと、かわいそうな気がします。

モータリゼーションは、都市部だけの現象ではありませんでした。とりわけいなかと言われる地では、若年層が進学や就職のために他の地域に転出する傾向が強く、人口減少のメカニズムをつくっています。人口が減少して公共交通の利用者は減り、維持が困難な事態に。不採算を理由に廃止バス路線などが増えていきます。ますます高齢者が増えていく地域で、まさに悪循環が起きているのです。

そして、いなかで暮らす親世代が支援や介護を必要になったいま、子世代は遠距離介護に突入する。「交通が不便！」と嘆きながらタクシー利用となる。

去年の秋、仕事で熊本市に出かけ、路面電車の姿を見てとてもなつかしく思いました。車の普及により大気汚染、地球温暖化といった地球規模での問題が深刻化しています。環境面から考えても、路面電車はクリーンだとのことです。路面電車を廃止した都市は、存続している都市に比べ、自動車利用が高まる結果、二酸化炭素排出量が多くなっているとのこと。また、路面電車を存続した都市は、廃止した都市に比べ人口集中地区の人口密度が約20％多く、路面電車が都市の拡散を防止する上で一定の役割を果たしたと考えられるという報告もあります。

タクシーを悪者扱いするつもりはありません。「料金が高い！」といっても、ドアツードアで便利。急いでいるときだけでなく、からだの不自由な方にとってもたいへん助かり、なくてはならない存在でしょう。親切な運転手さんも増えました。「身体障害者手帳」等の所持により、タクシー料金が補助されるサービスもあります。福祉業界にいる方には周知されていますが、一般には知らない人も多いのは気になるところです。

＊　＊

脱稿後、東日本大震災が起こりました。心よりお見舞い申し上げます。多くの方が離れて暮らす家族の安否や暮らしをご心配に。極限の疲労のはずなのに、救援に対し口々に「ありがたい」と感謝の言葉。自分にできることは何かを考え活動していきたいと思います。

（※）http://www.kotsu.city.osaka.jp/w_shieikoutsuu/kids-page/100th_history_06.html

NPO法人パオッコ
～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。
パオッコは「ひとりの経験はきっとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください！

〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8
本郷春木町ビル9F インキュベーションハウス内
ホームページ　http://paokko.org